

南仏治安情報（1月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）トゥールーズ発生、ジハーディスト志願少年のシリア渡航事案

6日、15歳の少年2人がイスラム原理主義集団に合流するためフランスを出国しトルコ経由でシリア入りした。現在、約400名のフランス人がイスラム原理主義集団に所属している模様。なお、この2名の少年は1月末にそれぞれフランスに帰国しており、治安当局の取り調べに対し、「人道活動に参加すべくシリアへ行ったが実態は兵士と呼ばれたことを知り帰国を決意した」と供述している。

（2）エクサン・プロヴァンス発生、税務所前での爆破事件

22日未明、税務所前でプロパンガスのボトルで作られた爆発物1個が爆発し、同建物に軽微な損傷を生じさせる事件が発生した。現場にはFLNP（プロヴァンス民族解放戦線）の署名が残されていた。同団体は昨年ヴァール県で爆破及び爆破未遂事件を起こしたが、手口が稚拙であったことから学生による犯行と見られており、未だ実態は明らかになっていない。

今回の事件は、2006年1月26日にエクス税務支所前で爆破事件を起こそうと試みて誤爆死したFLNC（コルシカ民族解放戦線）男性の起こした事件に関連づけているものと見て捜査が進められている。

（3）アヴィニョン発生、ジハーディスト志願少女の出国事案

1月末、アヴィニョンに住む15歳の少女が失踪した。ジハーディストになるべくシリアに向かったものと見られており、警察の捜査の結果、パリまで電車で移動し、それから飛行機でトルコ入りしたことまで判明している。

（4）コルシカ島発生、民族主義デモの暴徒化事案

オートコルス県で29日に行われたデモに参加した民族主義者約40名が暴徒化し、県庁支所防護に当たった機動隊員17名と憲兵隊員2名が石や火炎瓶等を投げつけられ負傷する事態となった。

● 殺人（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、帰宅時を狙った殺人未遂事件

3日夜、14区Flamantsの自宅アパートに帰ってきた37歳男性が建物ロビーで銃撃された。犯人は7発発砲し被害者に3発命中した。

（2）アルプ・マリタイム県ムージャン発生、殺人・放火事件

8日未明、麻薬取引歴を持つ24歳の男の遺体が発見された。遺体は燃やされた被害者の母親名義の車内から見つかっており、遺体にはナイフで

刺された跡が残っていた。警察は何者かが被害者を刺殺した上で車ごと焼き払ったものと見て捜査を進めている。

(3) マルセイユ発生、深夜のバーでの殺人事件

マルセイユ周辺で起こった今年最初の殺人事件。被害者は前科があり刑務所を出たり入ったりしていた20歳の薬物密売をする男で、近頃身の危険を感じていたという。被害に遭った13日未明、被害者は15区 La Cabucelle のバーにおり、突如大型バイクで乗りつけてきた男1名が現れたので逃げようとするも自動小銃で撃たれ、搬送先病院で死亡した。被害当時、バーには客がまだ大勢いたという。

(4) BDR 県オーバーニュ発生、自動車泥棒殺害事件

19日夜、路上に停車中の車内に30歳代の男が顔をフードで覆った状態で銃殺されているのが発見された。被害者は盗難車の運転座席で殺されており、膝の上に凶器と見られるカラシニコフが残されていた。被害者は窃盗、薬物使用、通貨偽造等の前科を持っており、車を盗んだ直後に殺害されたものと見られている。警察は対立抗争で殺されたものと見て捜査を進めている。

(5) トゥールーズ発生、ピザ屋店内での殺人・傷害事件

21日夜、20代男性がピザ屋で食事をしていたところ、何者かが店外から同人に向かって発砲してきた。発砲した男はその後店の中に入り、再度発砲して同男性を殺害した。この事件では他に2名が負傷している。

(6) マルセイユ連続発生、少年による殺人等凶悪犯罪の発生と検挙

司法警察は22日、16歳少年3名に対する取り調べを実施し、77歳女性に対する強盗強姦の犯行事実を認めさせた。本件は20日、少年3名が6区カステラーヌの老女宅にベランダから侵入し被害者を縛り付け監禁・強姦したもので、犯人らは証拠隠滅を図ろうともせず、素顔素手で犯行に及び、犯行後は近くのパン屋で買い物する姿が防犯カメラに捕らえられていた。

この事件を契機に余罪捜査が進められ、少年のうちの1人が昨年12月20日に7区 Chaix 通りのアパート内で発生した殺人事件にも関与しているとして捜査している。同事件で男性の遺体には強姦痕及び複数のナイフ痕が残っていた。

さらに、この少年については昨年12月25日に6区パラディ通りのアパート内で発生した80歳女性殺人事件や10区内80歳男性宅における緊縛強盗事件にも関与したと見られている。

(7) マルセイユ発生、アパート内殺人事件

25日朝方、12区 Les Caillols のアパート自室で銃殺された男性の

遺体が発見された。男性の遺体はソファーに座った状態で頭部を銃で撃ち抜かれていた。被害者は殺人・強盗・通貨偽造の前科を持つ男であり、被害状況から招き入れた知人によって殺された可能性があると見て捜査を開始した。

(8) マルセイユ発生、対立抗争と見られる銃殺事件

本件は、マルセイユ近郊で発生した本年4件目の銃殺事件。被害者は組織犯罪(薬物密売、殺人)の前科ある男で、28日夕方、13区 Clos-la-Roseにある娘の学校まで車で迎えに来たところを2人組の男によってカラシニコフで殺害された。犯人らは車内に20発の銃弾を撃ち込んだが、後部座席に座っていた被害者の息子(10歳)は無事であった。

(9) アルプ・マリタイム県ヴァロリス発生、銃による殺人未遂事件

27日夕方、ヴァロリスの中心街クレモンソー通りで、BMWのドライバーがスクーター乗車の男性に車を激突させ、さらに逃げるスクーター運転手に対し銃を2発発砲するという事件が発生した。現場はパニックとなったが、幸い怪我人は出なかった。警察は車に乗っていた20代と未成年の男2名を逮捕し、計画的犯行か否かにつき継続捜査している。

● 強盗(邦人被害なし)

(1) マルセイユ発生、車内監禁・強盗事件

22日夜、30代男性とその妻が12区自宅に戻りガレージに車を駐車した際、覆面をした男2名による襲撃を受け、3時間監禁され強盗被害に遭った。犯人はポンプ銃と自動小銃を持っており、被害者を脅し車内に押し戻すと自分達も同乗して街中を走り回り、途中3カ所の現金引き出し機で被害者の預金を引き出した。その後犯人は被害者の経営する8区所在の高級ブティックへ行き店内の好みの服を持ち出すと、被害者を9区 Luminyで開放し被害者の車で逃走した。車は10区内で燃やされているのが発見された。

(2) ガール県 Hauts de Villeneuve 発生、タバコ店を狙った強盗事件

25日朝方、タバコ店の開店を狙ってけん銃と警棒を持った覆面の若者2名が店内に押し入り、女性従業員を脅してレジ内の現金を奪った。犯人らは走って逃走した。

(3) ヴォクリューズ県 Vaison-la-Romaine 発生、ガソリンスタンドを狙った強盗事件

28日朝、ガソリンスタンド“Total”に顔を覆った男が押し入り、会計係の女性をスタンガンで脅して約1,000ユーロを強奪した。女性はショックを受けて病院へ搬送された。

(4) マルセイユ発生、主婦を狙った強盗強姦事件

30日、13区内において2人組の強盗犯が、玄関の扉を開けた30歳女性を殴りつけ、1人が外で見張りをし、もう1人が女性と家の中に侵入した。犯人は女性を縛り上げ、家の中のパソコンや携帯電話を盗み、果ては女性に襲いかかった。帰宅した夫が女性の縄を解き、警察に通報、警察は犯人のうち見張り役の18歳少年を逮捕した。主犯格の男は逃走中である。

● 誘拐・立て籠もり（邦人被害なし）

(1) エロー県ベゼイエ発生、逮捕監禁・脅迫事件

5日、葡萄栽培農地を所有する男性が、自宅で2、3名の覆面集団に拉致されるという事件が発生した。男性は猿ぐつわを噛まされ縛られた状態で犯人の車のトランクに押し込められ、約40km離れた地点で釈放された。犯人は男性に「農地を手放したら殺す」と脅されており、犯人は被害者がスイス人に農地を売却しようとしていたことを察知して本件犯行に及んだものと見られている。翌6日には、Midi Libre 社や不動産会社に対して「農業行動委員会」なる団体から脅迫状が届いた。内容は、外国人への農地転売により地価が上がって地元の若者が農業経営から閉め出されることを危惧し、土地を取得する外国人や仲介業者を闇に葬るというものであった。

(2) マルセイユ刑務所内発生、囚人による立て籠もり事件

7日夕方、マルセイユの刑務所内において、囚人によって刑務所が数時間乗っ取られる事件が発生した。犯人である囚人は、どこからか鉄製の棒を持ち出して職員を脅し約2時間立て籠もった。本件で怪我人は出なかった。

(3) マルセイユ発生、自動車泥棒による意図せぬ幼児連れ去り事件

1月下旬の夕方、母親が8区 Sainte-Anne 路上で4歳半の息子を車に乗せた状態で車から離れてしまった隙に、泥棒に車を盗まれた。車の鍵はダッシュボードの上に置きっ放しであったことから、犯人は何の苦労もなく無施錠のドアを開け車に乗り込み、鍵を使ってエンジンを掛け車を盗むことができた。しかし、犯人は車内に子どもがいることに気付き驚いたものと見られ、犯行から15分後に9区の路上で車を乗り捨てて逃走した。子どもに怪我はなかった。

● 傷害（邦人被害なし）

(1) マルセイユ発生、搬送患者の同伴者による病院スタッフへの傷害事件

24日未明、コンセプション病院の救急病棟において、搬送患者の同伴

者が病院スタッフに「待合室で待つよう」指示されたことに反発し、傷害事件にまで発展した。

(2) アヴィニョン発生、粗暴犯歴ある男による隣人襲撃事件

24日未明、粗暴犯歴のある32歳の男が隣家に押し入り隣人をナイフで切りつけた。犯人は犯行当時薬物影響下にあったと見られ、隣家のドアを破壊して中に入り、隣人男性の腕をナイフで切った。被害者は慌てて警察に通報し、犯人はすぐに逮捕された。

● 薬物関連

(1) マルセイユ、機動隊による銃器薬物一斉取り締まりの実施

25・26日の土日に掛けて、警察のCRS（機動隊）がマルセイユ市内南北のシテ地区で取り締まりを行い、銃器及び薬物を押収した。

(2) ヴォクリューズ県 Le Pontet 発生、刑務所面会人による薬物持ち込み事件

28日午前中、Le Pontetにある刑務所において、アヴィニョン憲兵隊は囚人の面会人に対して所持品検査を実施し、その結果4人の面会希望者から合計100gの麻薬を発見・押収した。

(3) マルセイユ空港における、コカイン入りスーツケースの発見

1月下旬、マルセイユ・プロヴァンス空港の預け荷物受け取り所で預け人不明のスーツケース1個が残り、税関当局が開披したところ、中から20kg以上のコカインが出てきた。警察と税関当局は、同スーツケースを引き取りに来ようとした人物について捜査中である。

● その他特異事件（邦人被害なし）

(1) マルセイユ発生、死亡轢き逃げ事件

12日の朝方、8区 Saint-Giniez にあるスーパー「モノプリ」前の路上で男性の遺体が発見された。遺体には車で轢かれた痕があったことから、警察は轢き逃げ事件と見て捜査を開始し、遺体発見前夜に被害者と飲酒していた友人からも事情を聴取した。

(2) アルプ・マリタイム県ムージャン発生、恐喝事件（被疑者の検挙）

1月中旬、ムージャンにあるキャバレー・レストラン経営者に対する恐喝容疑でグルジアマフィアの2名が逮捕された。この経営者がとある人物の事故死に絡んでいるという噂をもとに同人から20万ユーロゆすり取っていた模様である。なお、本件は昨年発足したPACA地方マフィア対策班の初検挙となった。

(3) マルセイユ連続発生、特異窃盗事件（被疑者の検挙）

昨年夏以降、マルセイユ市内の独居老人を狙って盗みを働いていた32歳の男が16日に逮捕された。犯人の手口は毎回ほぼ同様に、家を訪れた犯人がターゲットである高齢者に対し「この近くに住む近親者を訪ねたが留守だった。伝言を残したいので紙と鉛筆を貸してくれないか」と申し向け警戒心を解き、さらに「水を一杯頂けないか」と簡単な要求を重ねて被害者を油断させ席を外した隙に金目の物を奪って逃げるといったもの。被害者58名の中には犯人ともみ合いになり負傷した老女もいた。本件は警察に未届けの被害も多数あると見て余罪捜査も進めている。

(4) カンヌ発生、高額宝石窃盗事件（被疑者の検挙）

昨年5月17日、カンヌ映画祭開催中に100万ドルの宝石が盗まれる事件が発生し、世界中で大きく報じられたが、28日にアヴィニオンで同事件犯人グループの1名が逮捕された。犯人はこの事件の1ヶ月後に別件の窃盗罪で逮捕されていたが、後の捜査で本件犯行が明らかとなったもの。

※ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。